

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

令和2年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による評価

【令和3年5月27日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価 優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等			
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1-1 理念・目的・育人人材像は、定められているか	4	理念や目的は学則に明記し、育人人材像は入学案内や学生便覧に分かりやすい表現で明確に示している。	特になし	4	SCHOOL GUIDEには分かりやすくまとめられていました。 入学前から特別講義など取り入れ、専門人材育成に取り組まれている。 理念、目的、育成、人材像は明確に示されている。
	1-1-2 育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4	厚生労働省の指定養成施設として、指定科目の履修以外に就職フェアや実習施設説明会等を通じて、業界連携を図っている。また、教育課程編成委員会を定期開催し、業界ニーズに呼応する人材育成を目指している。又 理学療法、作業療法、臨床工学など姉妹校と合同で多職種連携教育を実践している。	特になし。		
	1-1-3 理念等の達成に向け、特色のある教育活動に取り組んでいるか	4	指定科目の履修だけでなく、入学前教育をはじめ全学年で朝学習を実施している。また、海外研修や就職フェア、看護研究発表会等、特色ある教育活動を姉妹校と連携して行っている。	生涯教育の視点を強め、更に高い専門性と使命感のある看護師の育成が課題であると考えている。①学年同窓会を通じて情報交換を行う。②研究発表会や症例学習会等の機会を活性化させる。人間教育の視点で、3年生に卒業前教育を導入している。		
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	将来を見据えて学科のイノベーションを図れるよう日頃から法人、学校単位で情報収集を行ない、卒業生への支援も法人と連携して取り組んでいる。	法人として、1学年360名(大阪地域2校・中国地方で3校)規模で看護師の養成に取り組んでいる。学園のスケールメリットと連携を生かし、看護教育部会を通じて合同学習や国家資格試験対策、業界連携等、看護師養成の在り方についても研鑽を行っている。		
2 学校運営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4	理念に沿った法人の運営方針をもとに、本校の運営方針を定めており、事業計画と併せて会議や研修にて教職員への周知の徹底を図っている。また教務会、教職員会議を月1回以上実施し、学校・学科運営が常に運営方針に沿っているかの検証にも努めている。	学園グループの建学の理念に基づき、看護師養成校として毎年学校目標を策定し教育活動を推進している。	4	教職員全員が毎年、ITリテラシーのテストを受けているとのこと、安心した。 適切な組織運営がなされている。 理念に沿った運営方針、計画がされ適切に連携しあいながら運営されるように整備されていると思われる。システム化もスムーズに導入されている。
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画は定めているか	4	毎年、年度当初に法人および本校の事業計画の概要を発表し、教職員への周知徹底を図っている。組織目的達成のために長期・中期・短期の定性目標と定量目標を定め、会議や研修等を通じて目標を達成するという共通の意識を教職員全員に促し、各人の行動力の喚起に注力している。実際の運営の検証・指導・支援体制も設け、計画遂行状況の確認、問題点の早期発見と対策等、業務改善するプロセスも確立している。	法人の5ヶ年計画に基づき各年度の内容を明確に示されている。本校の事業計画について各人がよく理解し、その計画を遂行していく中で教職員各々のリーダーシップが発揮され、職場の運営や人材育成がなされていくと考えている。その為にも、教職員の育成、成長が常に重要である。人材育成と共に、事業計画に基づいた学校運営に力を入れていきたい。		
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行なっているか	4	法令に則り、理事会、評議委員会が開催され、法人の運営状況を確認、検証している。本学園の幹部会議では法人内の各学校の管理・運営状況を確認・情報を共有し、リスクに関して、速やかに対応ができるような体制になっている。	特になし。		
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	4	組織図に基づいて、適切な運営ができているかどうか学内の管理運営会議等で確認・検証し、教務会や教職員会議を通じて、教職員へ報告・連絡、情報の共有を図っている。	会議の決定事項の理解と実行度に部署や個人差が生じないよう個別にフォローをしている。教務部と事務局の連携業務について、取り組む目的やスケジュール、役割分担等を明確にすると共に、その活動に関わる者が可視化できる共通フォーラムの使用と合同研修会を催すように努める。		
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	4	就業規則では、総則において教職員の等級を定められている。採用や任免、給与、教育訓練等についても明記され、給与や退職金については給与規定、教職員退職規定等、詳細に定められている。就業規則の検証も法人の会議内で毎年行なっている。学内においては、事業計画書の「人事計画(採用・研修)」に示され、この計画に基づいて年間の採用・研修が実施される。また、インセンティブや業績評価システムについても明記され、人事考課の基本方針となっている。	2018年度より、学園グループ全校で人事データ、および勤怠システムが電子化された。人事データバンクシステムは、教職員の人事情報やキャリア情報等のタイムリーな把握・集約を行うと共に人材と組織の活性化を図るものである。また、勤怠システムは働き方改革や社会から求められる適正な勤怠管理を徹底し、教職員が健康で楽しく働き、そして幸せな生活をする事を目指して取り組んでいる。		
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4	会議規程を基に、事業計画に意思決定システムとして、各種会議やミーティング、委員会を明記している。総学生数が240名程度の小規模の学校であるので、学校長を柱として副学校長、学科長、事務局次長が常に連携しながら運営にあたっている。	特になし。		
	2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	4	創立以来、AS400で情報を管理しており、業務の効率化が図られている。情報の入力、閲覧、出力の全てにおいて個人IDで制限が掛けられ、リスクマネジメントも十分である。また、1人1台ノートパソコンを使用しているため、教職員全員が毎年IT・リテラシーのテストを受けている。JPAC(一般社団法人日本プライバシー認証機構)の研修を受け、ネット上の個人情報漏洩や流出防止のための業務の在り方等についても資質向上を図っている。	各教職員へのパソコンの貸与と共に定期的なメンテナンスを行っている。また、IT・リテラシーの周知徹底とパソコン内の共有データの整理や集約の月を定期的に設け、安定した情報システムの管理を行っている。今後は就職データに関しても業務の効率化を図るようシステムを導入し運用体制を整える。		

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

令和2年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による評価

【令和3年5月27日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価 優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等			
3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	各法令に基づき、建学の理念に沿った教育課程の編成、実施方針について、学則や学生便覧等に明記している。	なし	3.8	コロナ禍においてのスムーズなオンライン化の導入、実施。実習に向けての自己学習の課題その他多職種連携との交流など大変であろうと想像し感謝している。 保護者会でもグラフ化された分析から、傾向や対策がよく理解できた。
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4	学生便覧に教育課程を明記しており、学科ミッションに沿って教務会等で到達レベルまでのプロセスや状況を確認している。また、科目毎のシラバスもその際にチェックしている。	建学の理念に基づき、厚生労働省の看護師養成ガイドラインに沿って、入学前から在学中、そして卒業後の教育システムを構築している。また、年次毎の学習目標と卒業時の到達目標についても明確に示している。		
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	教育課程では、学科の修学年限内に「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野Ⅰ」、「専門分野Ⅱ」、「統合分野」が体系的に配置され、段階的に効率よく学修できるようにしている。	看護の実践学修を目的として1年次から医療現場を想定した体験型学習を導入している。2020年度は多職種協同学習を姉妹校の他学科とオンラインで実施した。		
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	4	本校は開校以来、就職先や学外実習先、海外研修実務提携校、学生出身校、講師、保護者等からの意見や情報を収集し、業界が求める専門性と社会性を身につけた人材育成のために、教育課程の編成改善に努めている。また教育課程編成委員会を設置・開催しており、今後もこの委員会も活用して、より良い教育課程を編成する。	教育課程編成委員会でいただいたご意見に基づき、授業内容の見直しを行っている。		
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	4	キャリア教育に対する学園としての考え方やフレームを「キャリア教育ロードマップ」として作成し、全教職員に統一の方向で取り組んでいる。また、本校では、早くから「学び方、働き方、生き方」を学生に伝えられるように、生活習慣の定着と学習習慣の定着に取り組んでいる。	学年毎に以下の内容に取り組んでいる。1年次: マナー・規律教育、2年次: 看護職の責任・看護実践に必要な力、3年次: 自己を内省し看護師として働く職場を合致させる。		
	3-9-4 授業評価を実施しているか	4	コンピュータでの入力、集計、管理を行っている。フィードバックに関しては、結果を学内で検討する資料として活用するとともに、講師の教授法と内容・理解度・満足度と、学生本人の出席状況・授業態度・学習姿勢について、必要なものは授業担当者へフィードバックを行っている。	終講時に授業評価を全学年で実施している。学生は専用のweb.サイトより授業アンケートに回答し、学園グループ(BSC)で情報を管理するシステムである。ICT関係の授業評価が必要となってくる。		
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	学則、履修規程に基づいて、規定の出席率以上の者が受験資格を得ることができ、筆記試験や実技試験で一定の評価以上の者が単位を認定される。また、年度末に各年次の学修状況を履修認定委員会にて協議している。	特になし。		
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4	専攻分野に関する学習を深めると共にグループでの協同学習に取り組んでいる。また、本校独自の看護研究発表会を開催し調査研究やケーススタディの研鑽にも力を注いでいる。	平成27年度より、本校独自の看護研究発表会を開催。ケーススタディ、調査研究、実験研究等、発表の場を設け専門学習への意欲向上と実践力の研鑽に努めている。		
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置付けているか	4	看護師資格取得は教育課程上で明確に位置づけられており、就職との関連性を学生達に説き、学習意欲を高めるためのクラス運営や個別対応等を実施している。	特になし。		
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	4	学内に国家試験対策委員会を設け、模擬試験による客観的な能力評価、得点率の低い科目のチェックなどを行っている。また姉妹校や学園グループの国家試験対策センターとの連携を一層強化する。	受験者全員の合格に向けて、成績低迷者の個別フォローのあり方を改善する。また、姉妹校と連携して学習成績のデータベースを活用。毎年の国家試験の出題傾向の把握や対策の見直しを行っている。更に低学力者への学習支援やメンタルサポート、キャリアガイダンス等、資格取得体制の整備に努めている。		
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	各要件を満たした専任教員を配属している。しかし、1学年定員が80名であり、2クラス運営になることや実習施設の分散による教員の業務負担を考え、今後も教員の確保に努める。法人事務局と連携し計画立てた教員確保を進める。	現在、教員要件を満たしている者が12名である。一方、講師は高齢化が進み、受講する学生の気質や業界動向に鋭敏に対応できる教育体制の整備にも注力する必要がある。			
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	4	専任教員のFDは本学園全体の教員研修や学会等の機会を通じて行っている。その他にも、日本看護学校協議会の教員研修や本校独自の勉強会も開催し、教員の資質の向上に努めている。ICT活用の開始。	職業人教育を専門教育+キャリア教育と考え、養成職種に囚われず、学生の学び方・働き方・生き方に寄与できる教育力を教授する為に、年度計画に基づいて教員ひとりひとりのキャリアに応じた学外研修会への参加を実施している。一方、学園内においても新入職者研修やFD(マイクロレベル・ミドルレベル・マクロレベル)研修、マネジメント研修等を行い、教員の資質向上に努めている。ICT活用の技術力向上も必要となる。			
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	4	学校長を統括責任者として、現場の統括については副学校長・事務局次長が行い、学科長を中心とした教員組織の運営体制を敷いている。部署連携については、学校運営会議や教務会、各委員会会議を通じて連携を図っている。各領域、学年毎の学習会を実施している。	教務会を月に1回定例実施している。事務局次長が参加し教務と事務の情報共有を図っている。員の組織体制整備と資質向上の機会を生かし、教育目的・目標を達成できるチーム作りを進めていく。			

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

令和2年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による評価

【令和3年5月27日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等			
4 学 修 成 果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	就職率100%を継続達成している。入学年次より就職対策講座や業界セミナー等を実施。また、法人主催の就職フェア等の経験を通じて、社会人基礎力を培うと共に就業意欲を向上させる取り組みを行っている。実際の求職活動に際しては実習病院を中心に活動し、副学校長を中心に就職対策指導(資料閲覧・文書指導・面接対策等)も行っている。	看護系大学の卒業者が増加し、以前より就職が難しくなりつつある。2年次より病院見学を行うよう指導するなど採用試験の早期化に対応している。指導体制の整った実習病院を中心に学生全員が就職決定をして欲しいが、既存の実習施設との連携強化と並行して、今後は新規の施設開拓も必要と考える(昨年度の実習施設への就職は50%)。また、助産師学校の進学を目指す学生も若干名おり、1名助産課程へ進学した。	3.3	学生はセミナーや講座があることで早くから就職を意識できている。個別の対策もしっかりと本人が考える様に導いて貰えたと思う。 合格率の高さは学校の努力、学生の頑張りの成果だと思う。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	定期的に模擬試験や対策講義を実施し、習熟度別に個別対策等を進めた。試験の結果は以下の通りである。 【本校】 合格率:96.3% (81名中78名) 【全国平均】 90.4% ※(現役生の合格率:94.7%)	本校は、学生全員の受験を原則としている。国家試験対策として、国家試験対策センターによるグループ校合同模試 姉妹校看護学科との合同対策会議を定期的実施し、学園として合格率100%を目指す。低学力者を対象としたグループ教育や個別指導を強化している。 今年度同様、不合格者へのフォロープログラムを作成し実践する。		
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	卒業生の現況調査を継続実施している。実習施設に就職した卒業生については、実習内容の打ち合わせや巡回時に現況確認を行なっているが、社会的な評価を受けるのは、卒業生達のこれからの活躍次第になる。卒業生の評価が低いと実習病院から受け入れを拒否される恐れもあるため、それらを念頭において教員は日々の学生教育、指導に努めている。	卒業生に対して、転職や再就職状況等、情報収集を行っている。今後も同窓会活動や研修会活動を積極的に行い、卒業生の社会での活躍や評価データを収集する仕組みを整備していきたい。 また、卒業生の活躍を入学案内や学園新聞、新入職者導入プログラム、ホームページを通じて在校生・保護者、ステークホルダーに対して広く紹介している。		

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

令和2年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による評価

【令和3年5月27日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等			
5 学生支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	本校は1学科のみの小規模校のため、キャリアセンター室は設置せず、学生毎に担当教員を決め、学生の各種就職相談に応じている。オリエンテーション、保護者就職説明会、合同就職フェア、業界ガイダンス等を実施。	学園グループ全体でASシステムによる就職データ管理を行っており、開校時からの企業・求人情報、卒業生の就職先や在校生状況(実習先)等の状況を集約し就職支援体制を整えている。	3.3	学生支援の面でもあらゆる角度から充実した体制が取られていると思う。 就職における説明会やフェア時は専門学校がグループである事もあり計画的におこなってもらっている。 コロナ禍で難しいがボランティアの提案など引き続き行っていただきたい。変化するであろう1人1人をフォロー出来たらよい。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	3	退学となる主な理由として、学生自身の進路変更、体調不良、意欲低下等があげられ、近年の傾向として入学時より精神・心理的な問題・課題を抱える学生が増加する傾向にある。2020年度:3.2%(8/250) 目標3%以内。割合としては1年生の退学者が多く、看護師を志す意識づけと生活習慣を含む態度教育に苦慮した。全教職員が学生のキャリア教育メンターである事を自覚し、職業人教育に臨む姿勢から彼等のモデルとなるよう努める。また、勤務年数の浅い教員に対しては、学園グループのFD研修や各種研修会への参加、学内教務会を通じ各教員の資質向上を図っている。	学生気質の多様化、退学理由の複雑化に対応できるよう、教員の資質向上を図るとともに、入学前からの学生支援システムを改善する。毎年、年度当初に「学生サポートアンケート」を実施。各学生のフォローに活用している。学生個々人のケースについては、学生の出身校の教諭や保護者、また専門家(スクールカウンセラー)との連携を図り対応する。		
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4	学生相談室については、保護者を含め、入学前の学校説明会から告知し、入学後のオリエンテーション時に相談室の利用方法と内容を説明している。精神的な問題を抱える学生でもスムーズに学生面談できるようにしているが、心身の症状によっては、担任の適宜面談、医療機関への取次ぎや紹介も行なっている。	新大阪駅前の姉妹校の横にSSC(学生サポートセンター)を設置しており、今後も学生個々の個人情報を厳重に保護すると共に、サポートアンケート・学生ポートフォリオを有効活用し、カウンセラー・教職員が連携体制を整えて学生支援を図っていく。		
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	3	開校以来、留学生は入学していない。	今後のことを踏まえ法人の海外事業部との連携し、相談体制を整備していきたい。		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	入学前の学校説明会から対応し、入学時から卒業までを見据えた支援を行っている。内容は日本学生支援機構の奨学金、及び学費の分納対応である。在校生の約50%がこの制度を利用している。奨学金に関しては、学内に事務担当者を配置し、奨学金相談と手続きの窓口となっている。	奨学金を希望する学生に対しては、担当窓口を設け各種相談に応じると共に保護者や学生へ告知している。		
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4	定期健康診断は、2020年度も検診学生受診率は100%である。グループ企業の「慶生会クリニック」では内科・歯科・皮膚科があり、健康面での支援サービスをしている。	定期健康診断について、例年4月上旬に実施しているが、2020年度はコロナ禍により、6月に実施した。再受診が必要な学生は、クラス担任がフォローアップしている。		
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	4	生活環境の支援策として生活アドバイザーの設置や健康管理支援サービス(慶生会クリニック連携)を行ない、指定寮以外で一人暮らしをする学生には、アパートや不動産仲介業者の紹介を実施している。その他、全学生への緊急時安否確認メールシステムを導入している。	特になし。		
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	4	本校では学生数や学修時間の問題もあり、クラブ活動は行っていないが、体育館を使用しているレクリエーション活動を行っている。また支援体制として教職員と任命された学生委員とで連携し、学生交流会や戴帽式等の各種イベント等を実施している。	クラブ活動は無いが、ボランティア活動を通じて、徐々に社会貢献活動をする学生が増えてきた。		
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4	保護者への連絡を密にすることを重視している。在学中：各学年毎の「保護者懇談会」を実施。3年次には国家試験、2年次には就職、1年次は生活習慣を主とした保護者会を実施、教育理念、教育指導要領、年間予定、学修状況、就職状況等について説明を行っている。また、面談を希望される保護者には、個別面談を実施している。	今年度はコロナ禍の影響で保護者懇談会は、例年の開催時期(4月～6月)よりずれ込んだ。保護者懇談会について、全体説明の時間配分、質問対応など個別面談が保護者にとって負担とならない運営を心がける。WEBの活用や必要があれば、副校長や学科長、事務局次長による面談も行っており、早期に問題・課題解決ができるよう取り組んでいる。		
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	3	同窓会の目的は、会員相互の親睦、キャリアアップと母校教育の振興に寄与する事で、姉妹校の運営を参考に諸事業を実施していく。同窓会と連携し、在校生のキャリア教育の支援で卒業生に來校してもらっている。	現在は各期ごとで卒業生の現況把握を行っているが、今後は同窓会活動や研修会活動を積極的に行い、その役割を明確に示し更なる卒業生支援の活性化を図りたい。		
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3	本校独自の研究会活動を行うと共に、法人の滋慶医療経営管理研究センターや滋慶医療科学大学院大学が主催する業界セミナー等を卒業生に案内し、姉妹校と連携して卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいる。	特になし。			
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	ネットを活用した通信教育や国家試験対策(J—WEB)を行なうなどを整備している。	ネットを活用した教育環境は整備できているが、更に充実させていくことが必要である。電子端末機器を用いたインタラクティブな授業の試みも進められており、ICTを活用した教育を更にすすめていきたい。			

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

令和2年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による評価

【令和3年5月27日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価 優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等			
6 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	厚生労働省から指定されている施設・設備・教育用具等は整備されており、専門職として技術を磨くための設備や機器も完備している。またPCルームや図書室も整備しており、学生の学習意欲を喚起している。 <主な実習室> メディアセンター、在宅看護実習室、図書室、母子看護実習室、看護実習室、体育館等 学生に分かりやすいように学生便覧に配置図を掲載し、その位置を把握させている。	最新の視聴覚教材、教育備品、図書などを、整備拡充している。 学生個別面接、ゼミルームの整備が必要である。	3.5	COVID-19により実習調整し、学内演習と併せて経験差が生じないように調整されている。 実際に大規模災害を想定した防災訓練の実施が必要と考える。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	学外実習は指定科目として設定されており、看護師としての専門実務能力の向上や対人スキルの向上等を目指し、体系的なプログラムのもと実施されている。海外研修では語学学習のみならず、医療制度や政策の相違、医療サービスの現状等を海外の教育提携校での学習や施設見学等を通じて行っている。	学外実習については新規の実習先の確保自体が難しくなってきた事と、実習先で実践される教育内容の差が大きい事が課題である。法人や姉妹校と連携し、学外実習のシステム改善を図っている。 「異文化コミュニケーション」という科目内で実施している海外研修については、今後は質という面から研修の充実を図っていくことが重要と考えている。		
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	防災マニュアルを作成し、教職員には周知徹底している。また、学生含め本校関係者全員に防災マニュアルブックを作成し、配布している。 防災訓練は毎年実施するとともに、防災設備の定期検査や緊急連絡網の整備も行なっている。	今後、大規模災害を想定した場合、隣接する大阪刀根山医療センターと共同での訓練等も検討しなければならない。また、備蓄する物品の購入や保管等についても、環境を整える必要があると考える。更に刀根山地域の連携機会についても主体的に参画したい。		
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	本校は現校舎、新校舎ともにエレベーターが無い低い校舎のため、校舎管理や防災規程に基づき、全教職員で管理体制を整えている。	避難経路や非常(屋外)階段、AED設置箇所や駐輪場の拡大等、その管理体制をもう一度確認し、不備の点があれば整備したい。また、災害に備える防災教育を行うと共に、非日常時の水や食料の備蓄についても整えたい。		
7 学生の募集と受入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	広報担当者や教員が、定期的に高校訪問を行い、看護師養成に関連する業界動向や教育情報の提供を行っている。また、1年生は母校訪問を行い、現状を元担任や進路指導部の教員へ報告する。このような取り組みを通して、出身校との信頼関係作りを努めている。	訪問活動は限られているが、在校生、卒業生の報告は非常に好評である。今後は本校の認知度向上や国家試験結果、就職状況の情報を報告をするため、高校教員を対象としたWEBセミナーを開催する等、効果的に高校教員へアプローチを掛けていく。	3.8	大学教育が増えていく中、3年間で集中して学び看護師となり世に出ていく。看護師を目指す者のみ集まる学校というアピールポイントをいっそう見出しアプローチが可能である。
	7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	4	学生募集活動をキャリア教育の一貫として位置付け、教育実績や就職状況に裏づけされた学生募集活動を広報計画を策定し、スケジュールに基づいて実施している。募集要項は入学試験や学費等について明記し、正しい情報提供として入学希望者へ無料配布している。	高校1・2年生の頃から看護師の職種理解・職域について、ツールを用いてキャリアガイダンスを実施している。看護師を志す生徒や保護者に対して、業界情報や実際の学修動画等、ホームページ上の情報提供のあり方についてさらに改善を重ねたい。		
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適正に運用しているか	4	学則並びに規程に基づき、各回の選考日の2～3日後に会議規程のメンバーで判定会議を開催し、合否判定については合否基準に則って確定している。	特に無し。		
	7-26-1 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	広報担当者と学科教員で入学前に合格者の学習環境や学力データを分析し、過去のデータと比較して、入学後の授業展開方法や個別のフォローのあり方を毎年検討し、改善している。	全入学内定者に入学前教育を実施しているが、学習習慣が未定着の学生や学力が低い学生へのサポートが課題である。国語基礎対策(文章を読む技術・文章を書く技術)、および生物基礎対策(人体:細胞、構造と働き)について学習支援を実施し、専門学習への導入を行っている。		
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	学納金は、事業計画の中で収支計画をたて、理事会の承認を経て決定している。入学予定者に関しては、入学金・授業料・実習費・設備費について、募集要項やホームページに記載している。また毎年、教材費などの諸費用に関しては無駄がないか精査、改善を図っている。	ICT教育に即した学習環境(wi-Fi)等を整えるために、諸経費から情報教育費を充てている。		
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適切な取扱を行っているか	4	募集要項には、入学辞退に関する手続きをわかりやすく記載している。	本来であれば「専願」で受験し、合格した者が辞退することは無いはずだが、昨今は入学試験の種別、取り決めに関わらず、自己都合で入学辞退する学生の対応に苦慮している。		

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

令和2年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による評価

【令和3年5月27日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	
8 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務 基盤は安定しているか	4	負債の総資産に対する割合が基準を満たしている。 債務超過になっていない。 借入金償還額が帰属収入割合をクリアしている。	経費の見直しや収入の増加によって現金預金の流動資産に対する割合をもう少し増やすように努力していく。	4	適切に処理されている
	8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務 数値に関する財務分析を行っているか	4	主要な財務比率を算出して経年比較をしている。	今後も5か年の予測を立てて、収支改善に努力していく。		
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、 中期計画を策定しているか	4	毎年の事業計画に基いて予算執行を行なっている。	中期計画は多少の変更が生じるため、毎年の事業計画によってその変更を予算 に入れ込んでいく必要がある。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行 管理を行っているか	4	毎年の事業計画に基いて予算執行を行なっている。	特になし		
	8-30-1 私立学校法及び寄付行為に基づき、 適切に監査を実施しているか	4	定期的に監事のヒアリングを受け、決算日後に公認会計士と監事の会計監査を受け ている。	特になし		
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を 整備し、適切に運用しているか	4	財務情報を知りたい利害関係者のために閲覧体制を整えていると同時に、HPで も公開している。	特になし		
9 法令 等の 遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守 し、適正な学校運営を行っているか	4	本学園に常務理事を委員長にコンプライアンス委員会が設置され、コンプライア ンスの推進に関する基本方針の策定、教職員に対する啓発及び教育・研修、コン プライアンス上の疑問や問題・法令違反懸念等の通報に対するの対応を行なってい る。本校でも教職員がコンプライアンス上問題となる事例、またはその恐れがある 事例を発見した場合に報告する相談窓口を設置している。	学校運営を進めていく上で、法令については一つの過失で社会的信頼を失うこと になるため、今後も教職員の研修に力を入れていく必要がある。学園ならびに本 校においてもコンプライアンスの推進に関する教職員に対する啓発及び教育・研 修を継続して実施していく。	4	適切に対処されている。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する 対策を実施しているか	4	学生便覧には個人情報の取り扱いについて明記し、オリエンテーション時には学 生に説明している。また学内には個人情報保護委員会を設置し、その取り扱いに ついて詳細に取り決めている。 <個人情報保護委員会> 委員長は、個人情報管理責任者(学校役員) 委員は、個人情報取扱責任者、個人情報実務担当者 各種マニュアルの整備、職員教育、問合せ・苦情受付等 その他、セキュリティ面も強化してTRUSTeによる認証を受けている。	個人情報保護委員会の設置に伴い、学園グループで設置しているコンピュータ委 員会でIT・リテラシーガイドラインを作成し、ITを利用する上でのモラルやマナーの 体得に向けて全教職員が学習している。これらを基に学生は、情報科学系の授業 にて正しいIT・リテラシー教育を受けている。 JPAC(一般社団法人日本プライバシー認証機構)の研修を受講している。		
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を 行っているか	3	職業実践専門課程の申請もあり、法人として共通の項目で自己点検・自己評価を 実施した。実施体制としては会議規程に委員会設置を明記し、当該年度内で定期 的な評価を行なった。	今後は姉妹校同様に私立専門学校等学校評価研究機構(以下機構)に加盟し、 自己点検・自己評価を実施して第三者評価を受ける体制を整える。		
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	4	学校関係者評価委員会でも使用するフォーマットで公表している。	法人内の各校と共通の項目で実施しており、その公表スタイルもホームページに 「情報公開」のタグを設置して、法人内で統一している。		
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し 評価を行っているか	4	教育課程編成委員会を開催し、評価内容や現状、次年度重点課題設定等の妥当 性について評価をいただいている。	中長期ビジョンに立った学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の運営、 学校改善の方向性を見出していく必要がある。		
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表している か	4	法人共通のフォーマットで行っている。ホームページ上で結果を公開している。	特になし。		
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的 に行っているか	4	看護師国家試験を受験した結果(受験者数や合格者数、合格率)や就職内定率な どは在校生保護者会や入学案内等でも公開しており、ホームページ上では職業実 践専門課程の規定通り、公表している。	情報公開の形式、手段等は法人内の各校で合わせている。 (学校の概要・目標及び計画、学科教育、教職員、キャリア教育・実践的職業教 育、教育活動・教育環境、学生の生活支援、学生納付金・修学支援、学校の財 務、学校評価、国際連携の状況、その他)			

学校法人 大阪滋慶学園 大阪医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

令和2年度自己点検自己評価(令和2年4月1日～令和3年3月31日)による評価

【令和3年5月27日実施】

大項目	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法 特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	委員評価	学校関係者評価委員よりの御意見
		優れている・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 改善が必要・・・1	現状・具体的な取組み等			
10 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	本校の教室や体育館を近隣の刀根山高校などに開放するなど、校舎・設備の開放は依頼があれば積極的に行なっている。 また地球温暖化防止への取り組みを推進しており、校舎内の不要な電気の消灯、節水、コピー節約、ゴミの分別、教職員のクールビズ等に取り組んでいる。 更に、実習施設による業界ガイダンスセミナーや法人主催の就職フェアでは、府内を中心とした事業所へ人材情報提供を行っている。	館内施設や設備を大阪刀根山医療センターをはじめ、地域の保育園や幼稚園、企業、各種団体へ開放し、今後も積極的に住民の方々との交流を図っていききたい。	3.2	可能であれば実習施設の入院患者にクリスマスカード等のボランティアを期待する。 地域に根ざした社会貢献活動を進められている。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	2	コロナ禍の影響で、2020年度については、2年次に実施の「異文化コミュニケーション」科目内で、海外教育提携校での看護大学における約1週間の研修部分は延期となった。2021年度については、オンラインでの海外提携校及び附属病院との研修実施予定である。 英語をコミュニケーション言語として捉え、価値観や文化の違いを理解し、より広い視野で物事を見る国際的な感性を養う。	学生が海外で学ぶ機会及び、海外からの学生や教職員の受け入れは、2020年度は実施できなかった。将来的には国際教育の具現化に向け、さらに海外からの学生を受け入れることができるよう環境を整える。		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3	ボランティアについては例年、実習施設や地域から協力依頼を受けている。ボランティアの依頼があれば、教職員が窓口となって学内の掲示板に情報を掲示し学生に告知。2020年度については、コロナ禍の影響で、大幅に減少している。学生が円滑に活動できるよう支援しているが、今後は更に支援する体制を整える必要がある。	例年 地域の清掃活動、病院での奉仕活動などを行っている。また、豊中市の市民協働部や刀根山校区の地域自治協議会の活動にも参画し、地域に根ざした社会貢献活動を進めていくように努める。専門学習のみならず、地元住民や世代を越えた人との出会い等、貴重な体験活動の機会を学校として積極的に支援し、看護師を目指す学生達の社会性やホスピタリティを含むトータルな資質向上を図りたい。		